



子育て交流ひろば  
**親子で笑顔  
心の充電に**

南部市民サービスセンター・保育主任（保育士） 石井 元子

就学前のお子さんの健やかな成長を支援します。子どもたちと親御さんの笑顔がはじける空間が「子育て交流ひろば」です。なんぴあ1階のガラス張りの部屋です。ご存知の方は多いのではないのでしょうか。

「ひろば」にはお子さんと楽しめるさまざまな素材のおもちゃ、体の発達を促す大型遊具、読み聞かせにおすすめの絵本などがあり、いつでも自由に遊ぶことができます。

また、年間を通して親子のふれあい遊びや工作、育児講座なども企画。今年度はベビーマッサージや3B体操、助産師さん、保健師さんを招いた育児相談もありました。クリスマスのエレクtoonコンサートも人気で、音楽を体いっぱい感じてながらサンタクロースの登場に喜び親子の姿が印象的でした。

「ひろば」は子育ての不安を和らげるとともに、利用者同士の交流の場ともなります。心の充電をして、また明日から頑張ろうと思ってもらえる空間を用意しています。のぞいてみてください。

「ひろば」には南部地域子育て支援ネットワーク連絡会の事務局があり、サークル、保育園、こども園の情報提供をしています。

**開館** 9時～12時、13時～17時  
土日祝でもご利用ください

**電話** 838-1216



サークル紹介

**ソフトエアロ** 活動日 第2・第4 金曜日  
9:00～12:00

本館

健康維持を目的に結成。今年で5年目のサークルです。活動日は第2・4金曜日、会場は2階の地域文化ホールです。秋田市内で幅広く活動しているエアロビクスのインストラクター・安田みどりさんを講師に、軽快な音楽に合わせ、リズムカルなステップを踏んで心地よい汗をかいています。会員は22人で、70歳代が中心。無理なく、楽しく出来るプログラムで、休憩を挟みながら1時間程度、体を動かしています。「ソフトエアロ」は大好きな先生と、そして仲の良い会員たちと楽しくおしゃべりできる大切な時間です

**こまち連** 活動日 第2・第4 木曜日  
19:00～21:00

別館

サークルが誕生してから今年で10年。国の重要無形民俗文化財である日本三大盆踊りの一つである羽後町の西馬音内盆踊りをずっと練習しています。本場で踊ることを目標に、当初から地元保存会の月例練習会に毎月参加。初めて本番の会場で盆踊りに参加したときは、みんなドキドキしながら踊ったことを覚えています。

踊り始めて3年目までは浴衣で、4年目からは端縫の着物で踊れるようになり、みんなで楽しく練習しています。昨年10月、なんぴあ別館で開かれた「なんぴあまつり」では端縫の着物に編み笠、あるいは藍染めの浴衣に彦三頭巾といういでたちでサークルのメンバーが日頃の練習の成果を披露しました。

コロナ禍前は施設慰問などもしていました。早く以前のように皆さんの前で踊れるように練習を重ねていきたいと思っています。



秋田NH水野社長

プロバスケットで秋田を元気に

第14回なんぴあ魅力アップセミナー

令和4年9月3日になんぴあ本館（御野場）で「第14回なんぴあ魅力アップセミナー」が行われました。秋田ノーザンハピネッツ社長の水野勇気さんが「動けば変わることを学生時代に学んだ」とし、新Bリーグに向けて「東北随一のアリーナを作ることができれば子供たちの目標になる」と、プロバスケットを通じて秋田を元気にしたいと熱く語りました。



新型コロナウイルスの流行から3年が経過しました。第8波はインフルエンザの流行期とも重なるため、まだまだ油断できない状況が続きます。引き続き、予防対策を心がけていただきますようお願いいたします。

（広報委員長・鈴木久美）

編集後記

なんぴあだより

第17号

発行: 令和5年2月10日 南部地域づくり協議会



「元気のいい  
なんぴあ」に

南部地域づくり協議会  
会長 佐藤 義明

新型コロナウイルス感染症が流行し始めてから3年、ロシアのウクライナ侵襲から1年。これらに起因する政情不安や物価高騰…。私たちを取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。国内外を問わず困難な世の中になったと感じざるを得ません。

こうした中、「なんぴあ」を中心とした地域活動も中止、あるいは自粛を余儀なくされ、折角であった地域間、世代間の交流の場が失われつつあります。

この局面を乗り切るためには、今までの常識や慣行を一度リセットし、時代に即応した活動の仕方を考える必要があるように思います。新しい人間関係をつくるいいチャンスととらえると、今までとは違う景色が見えてくるような気がします。

そうした観点から「南部地域づくり協議会」も組織や運営の仕方について一から考え直してみたいと考えております。地域の皆様の協力を得て「元気のいい なんぴあ」をつくれれば、との思いです。



進む南部地域の治水対策

南部市民サービスセンター  
副所長 阿部 公能

雪の少ない穏やかな新年でした。その一方で記録的寒波、いまだ戦禍にある国、コロナ禍…。穏やかな新年を迎えることがいかに難しい時代になったのかと考えさせられます。

私は昨年4月に環境部から異動、自分の住む地域で行政に携わることができ喜びを感じながら、責

務の重さについても考えさせられる1年でした。

なんぴあは、普段は市民サービスセンターですが、災害時には避難所に指定されます。昨年避難所を開設すべきかどうかの判断を迫られる大雨が何度か降りました。しかし、1分間に60トン排水できるポンプ車の導入により、早々に待機状態が解除されました。南部地域では災害に強いまちづくりが確実に進められており、令和7年までにさらに強固な治水対策が講じられることをご報告します。

今年10月には改築された上北手コミセンの供用がスタートします。コロナに負けず、新たなチャレンジの場としても大いに利用していただければ幸いです。

“市長トークと♪Ree&Hi～Roの音楽”で新春を祝いました

牛島地区町内会長連絡協議会  
副会長 鈴木 久美

毎年1月の第1土曜日、27町内の関係者と諸機関・諸団体が集まって『牛島地区新春懇談会』を行ってきました。この会は4団体連絡会(牛島地区町内会長連絡協議会、市民憲章推進協議会、振興会、社会福祉協議会)が持ち回りで開催するいわゆる新年会ですが、コロナ禍もあり、ここ2年間中止していました。しかし、空白の怖さを考慮し、3年ぶりに飲食ナシで行うことにしたのです。



タイトルは『牛島地区新春懇談会&市長トークin牛島』と変え、市長トークと♪歌とギターの音楽を入れて、有益で楽しい会にして



実施しました。

出席者の自己紹介を念入りにした後、市長トークに入り、穂積市長が猿田川と古川の工事に触れながら、笑顔でこの1年の市政について語ってくれました。続いてReeさんとHi～Roさんによる、♪卒業写真、いい日旅立ち、あの素晴らしい愛をもう一度などの、懐かしのフォークソングの後に、まちづくりの一環で作った「みんなの牛島」(舟木一夫・高校3年生の替え歌)を、市長も大合唱して終わりました。

コロナ禍は4年目になりましたが、空白を生まないように知恵を出し合って、いろんな形で行事をやっていきたくと思っています。

紙面案内

- 2ページ 各地区の取り組み・話題 (仁井田、大住、四ツ小屋)
- 3ページ 第7回なんぴあまつり、第15回魅力アップコンサート
- 4ページ 南部地域づくり協議会と秋田市議会南部議員団との懇談会
- 第14回魅力アップセミナー、子育て交流ひろばの話題、サークル紹介、編集後記

「雄物川クリーンアップ活動」について

仁井田地区

仁井田地区市民憲章推進協議会環境保健部

秋田市民の水がめとして約70年間、清涼な飲料水を供給し続けた近代化遺産「藤倉水源地」。現在、その重責を担っているのが仁井田地域の南側を流れる雄物川です。緑豊かな環境にあり、「地元住民がその自然を守らなければならない」との思いから始めたのが「雄物川クリーンアップ活動」です。

昨年4月、古川排水樋門付近と河川敷グラウンド付近の2か所で、23町内会・6団体から



150名以上の方々にご協力をいただき、軽トラック約8台分のゴミを収集。秋田市環境部のゴミ収集車で御所野処理場へ搬送し処理しました。

令和2年は河川改修工事、3年はコロナ禍で中止となっており、感染予防対策を講じて行った昨年の3年ぶりの活動は15回目を数えました。

クリーンアップ活動は秋田市民憲章にある「環境をととのえ、きれいなまちをつくりましょう」を合い言葉に、仁井田地区市民憲章推進協議会環境保健部が担当しています。国土交通省が推進している「河川愛護事業」でもあり、平成21年には秋田河川国道事務所長から、26年には国土交通省東北整備局長から感謝状が贈られています。

かつては500人以上が参加した事業で、今後も協議会を中心に、町内会や各種団体等の協力をいただき、毎年4月29日に開催していくことにしています。

【南部地域づくり協議会】

本館 秋田市御野場1丁目5-1  
電話 018-838-1211  
別館 秋田市牛島東6丁目4-5  
電話 018-853-5727

四ツ小屋地区

元気づくり協議会活動に新たな刺激

四ツ小屋地区振興会 副会長 新田 宏光

地元産農作物の直売やグリーンツーリズムを通して地域の賑わいを取り戻そうと2018年から活動している四ツ小屋地域元気づくり協議会。主に四ツ小屋、小阿地、末戸松本の各地区の町内会で構成され、年に十数回開かれる「せせらぎ市」や農業農村体験メニューの提供などの事業を展開しています。2022年は大学生とコラボする場面もあり、若い力が新風を吹き込んでくれました。

「せせらぎ市」は昨年、計11回開催。年内最終日の11月5日は「四ツ小屋野菜」の土ネギ、里芋、大根、キャベツ、白菜、小松菜、さらに新米などが店頭に並べきれない状態となり、軽トラの荷台を「店舗」として開店しました。このときは学生や市民らで組織する「ぷらすラボ」とコラボした「せせらぎ市プラス」も開催。ラボのメンバーの学生らが苗から育てた特大サイズの芋を炭火でじっくり焼いて提供した「焼き芋大会」のほか、「マジックショー」「皿回し」、国際教養大学生による手作り小物等の販売も行われました。甘さたっぷりの焼き芋は好評で、大いに賑わいました。



7月の「第4回せせらぎ市」では秋田公立美術大生による「お絵かきワークショップ」を同時開催。園児や会場の子供さんたちが花をかたどった色紙に好きな絵を描き、プランターに植えて「花」を咲かせました。次年度も「せせらぎ市」をメインに四ツ小屋地域の活性化に尽力していきます。

「第7回なんぴあまつり」が令和4年10月15、16の両日、なんぴあ別館（秋田市牛島）で行われました。コロナ禍で2年続けて中止となっていたため、今回は3年ぶりで、牛島は初開催でした。日頃の活動の成果を発表する



「第7回なんぴあまつり」

初の別館(牛島)開催

芸能発表、野菜販売など盛況

登録サークルのステージ発表、作品展示（切り絵、陶芸、木彫り、俳句）、鉄道カメラマンによる講演会に加え、牛島小学校の全校児童が約380点（書道、絵画、俳句、クロッキー、華道）を展示、花を添えました。また、駐車場では野菜販売なども行われ、両日ともに盛況でした。



佐々木あかねさんと仲間達 懐かしの音楽で魅了

第15回なんぴあ魅力アップコンサート 令和4年10月16日になんぴあ別館（牛島）で行われた「第15回なんぴあ魅力アップコンサート」。佐々木あかねさんとその仲間たちが1時間半にわたって懐かしの音楽を披露、訪れた地元住民約100人の心を癒しました。15、16の両日、別館で開かれた「なんぴあまつり」とコラボし、大いに盛り上がりしました。



大住地区

「会報発行」災い転じて... 大住学区振興会は秋田市民憲章の理念にのっとり組織された団体です。大住地区内の14団体で構成され、社協、民児協、体協、コミセン、振興会の5団体は年度末にそれぞれ会報を発行、1年の活動報告をしていました。



ところが、新型コロナウイルスの感染拡大で予定していた年間行事が軒並み中止となった令和2年度は、各団体ともページ数の確保が難しくなりました。思案の末、5団体で一つの会報を作ったらどうかと、全団体が所属する振興会を中心に編集作業を進めた結果、3月には全世帯に合同の会報を配布することができました。コロナ禍が続いた令和3年度も今年度も事情は同じで、今回も「合同だよ」として発行すべく作業を進めています。多くの町内会長の「配布物が多くて大変だし、町内会員にもあまり読んでもらえていない」という声にも応えられるのではないだろうか。多くの声、各団体のアイデア、工夫を来年度以降の会報作り役に役立てたいと思っています。

大住学区振興会 事務局長 飯島 明

牛島跨線橋の拡幅問題

一方通行化も含め 市に安全対策要望

南部議員団/南部地域づくり協議会



秋田市議会南部議員団（南部地域在住）と南部地域づくり協議会との懇談会が1月17日、なんぴあ本館の地域文化ホールで開かれました。南部地域（牛島、大住、仁井田、上北手、四ツ小屋、御野場、御所野）が抱える課題解決に向けて意見交換し、住みよい地域づくりを進めようというものです。昨年4月に続いて2度目の今回は▶牛島車両基地跨線橋の拡幅問題▶県内でも有数の名所である牛島の桜の保存▶学区再編成などについて幅広く意見交換しました。

最大の懸案である跨線橋については秋田市建設部道路維持課が、昭和43年につくられ、架設後54年が経過して老朽化が進み、まず補修工事をしなければならないことを説明。拡幅に関してはJRとの協議の流れに触れると同時に、莫大な費用がかかること、新幹線が走行する時間以外での工事となるため工期が長期化するなど大きな問題もあるとし、まだ地域に納得できるような回答ができていないとしました。

懇談会の中で「通学する子供たちの危険回避が最重要で歩道と車道を区切るフェンスはできないか」「跨線橋周辺を一方通行にするとか、時間を区切って通行させるといった安全対策も同時に考えてはどうか」などの意見が出ました。そして議員団と協議会から市に対し「JRから文書で正式回答を得てほしい」と要望しました。

また、牛島の桜については「例えば『桜課』のような、市内の桜を所管する課を新設し、後世に引き継ぐ手立てを講じるべき。市への陳情も考えたい」、学区については「再編、あるいは学校統合により地域のコミュニティーが壊れる可能性がある。より慎重に進めるべき」との意見が出ました。

それぞれの問題については、引き続き懇談会で話し合っていきます。